



大学院医学研究院 桑原聡教授の最終講義が行われました

令和6年3月をもって退職される大学院医学研究院 桑原聡教授（脳神経内科学）の最終講義が、3月5日（水）に医学部附属病院ガーネットホールにて行われました。当日は本学の教職員・学生、学外から多くの来場者が聴講しました。

桑原教授は昭和59年に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学医学部附属病院の助手となり、プリンスオブウェールズ神経科学研究所へ留学。その後、講師および助教授を経て、平成20年に千葉大学大学院医学研究院 脳神経内科学の教授に就任され、以来17年間にわたり脳神経内科学の研究活動・発展に大きくご貢献されました。

最終講義は、三木研究院長からのご挨拶（代読：本橋副研究院長）、大鳥附属病院長からのご挨拶の後、演題『神経治療学の明日をめざして』について、希少疾患であるPOEMS症候群、ALS、ギラン・バレー症候群の研究などについてお話しされました。講義終了後は、学生代表をはじめ、多くの関係者から謝辞と花束が贈呈されました。

桑原教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。



本橋副研究院長による研究院長ご挨拶代読



大鳥附属病院長によるご挨拶



最終講義の様子



学生代表による謝辞



花束贈呈